

課題名 いちご産地の活性化

指導対象 那賀地方いちご生産組合連合会 (98 名)

1. 取組の背景・ねらい

県育成品種「まりひめ」は管内の栽培面積の約 8 割を占める主力品種となっているが、品種特性として、炭疽病に弱く、出蕾遅延株や心止まり株の発生が多いことが問題となっている。

そこで、炭疽病感染リスクが低いといわれている秋ランナー自家採苗技術の普及に取り組んだ他、出蕾遅延株対策として花芽検鏡による適期定植指導を行うとともに、花芽検鏡ができる生産者の育成に取り組んだ。

2. 活動内容と成果

(1) 秋ランナー自家採苗技術の普及

【内容】11 月 9 日に JA 紀の里観光いちご園にて秋ランナー採苗研修会を開催した。また、秋ランナーの採苗方法と活着率の関係について調査を行った。

【成果】研修会には生産者 16 名、研修生 8 名、JA 等関係者 8 名の出席があった。生産者の多くが取り組みたいとの意向であり、普及率は 20%を超えと思われる。試験結果については次期総会時に生産者へ情報提供を行う予定である。



秋ランナー採苗研修会の様子

(2) 花芽検鏡の実施と花芽検鏡研修会の開催

【内容】JA 紀の里営農指導員の協力を得ながら、8 月から 10 月にかけて、13 回の花芽検鏡を実施した。また、花芽検鏡ができる生産者育成のため、9 月 8 日に研修会を開催した。

【成果】シーズン中の検鏡数は 326 点で、延べ 70 名に適期定植指導を行った。また、研修会には生産者 6 名、研修生 10 名が参加し、5 名が生長点の確認に成功した。



花芽検鏡の仕方を熱心に学ぶ参加者

3. イチゴ生産者（紀の川市 A 氏）

研修会がきっかけで秋ランナーの自家採苗に取り組み始めた。花芽検鏡は想像以上に難しく、技術者の苦勞を知ることができた。技術を習得できるよう、来年度も研修会に参加したい。

目標管理	現状値 (R2 年)	目標値 (R5 年)	年度実績値		
			1 年目 (R3 年)	2 年目 (R4 年)	3 年目 (R5 年)
花芽検鏡数 (点)	241	300	244	327	326
研修会の開催 (回)	1	2	0	0	3

担当者：嶋本旭寿、川村昌子、小泉奈美
協力機関：JA 紀の里、農業試験場